

S-1108 の婦人科軽症感染症に対する応用

館野政也

富山県立中央病院産婦人科*

新しい経口セフェム系抗生剤 S-1108 について、卵管炎 1 例、バルトリン腺膿瘍 1 例、外陰炎 1 例の婦人科感染症に 1 日量 300 mg 投与し、以下の結果を得た。

- 1) 臨床効果は 3 例とも有効であり、臨床的に解熱、自覚症状の改善、赤沈、CRP、白血球数の改善を認めた。
- 2) 副作用は認められなかった。
- 3) 使用前後における臨床検査値の異常は認められなかった。

key words : S-1108, 婦人科, 感染症

産婦人科感染症の中で高熱や激しい下腹痛を伴う感染症、あるいは分娩後の子宮内感染症などの重症感染症に対しては入院の上、広範囲抗菌スペクトラムの抗生物質を点滴静注を中心として応用するが、軽い骨盤腹膜炎や外陰炎などの場合には外来で経口投与による治療を行うことが多い。しかし外陰の炎症といえども疼痛を伴うことが多く、起炎菌を同定してからの治療というわけにはいかない。

従ってグラム陰性の大腸菌をはじめとしてグラム陽性菌に対しても有効な広範囲抗菌スペクトラム抗生物質の使用が望ましいといえる。今回塩野義製薬株式会社研究所で開発された経口用セファロsporin系抗生物質 S-1108 を軽症感染症に応用する機会を得たので、3 例という少数例ではあるが報告する。

今回使用した経口セフェム剤は 1 錠中に S-1108 を 100 mg (力価) 含有する錠剤である¹⁾。

今回治療の対象とした婦人科疾患は、治験参加の同意が得られた 35 歳の卵管炎と思われる症例、64 歳のバルトリン腺膿瘍、および 43 歳の外陰炎の症例の 3 例である。本剤の投与方法は 1 錠 100 mg の錠剤を 1 日 3 回、7 日間投与し、投与前後の発熱、疼痛および局所所見などの臨床症状、臨床検査成績を比較検討した。治療成績のあらましは Table 1 の如くである。症例 1 は 35 歳の軽度慢性の卵管炎と思われる症例で右下腹痛を訴えて来院した。内診でダグラス窩に圧痛があり、右付属器にも圧痛を認め、卵管炎と診断した。ダグラス窩穿刺によってダグラス液を培養したが菌は証明されなかった。1 日 300 mg 7 日間の使用によって臨床症状は改善された (Table 1)。また赤沈

値の改善も認められ、一応有効と判定した。症例 2 では 64 歳のバルトリン腺膿瘍で外陰の小陰唇に直径 1.0 cm の有痛性の腫脹、圧痛あり本剤を 1 回 100 mg 1 日 3 回 (300 mg/day) 7 日間投与した。膿の培養では *Peptostreptococcus micros* が認められ、白血球も 8300 と増多を示していたが、本剤の投与により臨床症状は著しく改善され、白血球も 5900 と減少した。一応有効と判定した。症例 3 は 43 歳の外陰炎で外陰の有痛性腫脹があり、本剤を投与した。1 週間の投与で臨床症状は改善した。なお外陰の膿の培養では *Pseudomonas aeruginosa* が検出されたが、本剤の投与により菌は消失した (Table 1)。

なお臨床検査成績は Table 2 の如くであった。副作用は 1 例も認めず、臨床検査値の異常も認められなかった。また本剤使用前の炎症症状としての著明な発熱、白血球増多、CRP 値の著明な上昇、赤沈の異常亢進など炎症症状のサインは 3 例共著明ではなかった。

近年、広範囲抗菌スペクトラムの抗生物質の台頭がめざましいが、耐性菌の問題、感受性の問題などを考えると first choice として使用する抗生物質の選択は、婦人科領域感染症 (骨盤内炎症) のような起炎菌の明らかでない場合には難しい一面をもっている。また投与した抗生物質の血中濃度、臓器内分布の問題も重要であるが、最近の抗生物質の内性器への分布は良好のようである。さらに軽症感染症に対しては外来通院でも治療可能な経口剤の台頭が待たれていることも事実である。

S-1108 は錠剤であり、服用し易いように配慮され

*〒930 富山市西長江 2-2-78

Table 1. Clinical summary of S-1108 treatment

Case No.	Age	Diagnosis (Underlying disease)	Symptoms	Administration		Organisms isolated before after	Laboratory findings before and after administration of S-1108	Evaluation		Adverse reactions	
				daily dose (mg)	duration (day)			bacteriological	clinical	symptoms	laboratory findings
1	35	salpingitis	Lower abdominal pain	300	7	not detected	WBC 7,100→6,800	unknown	good	(-)	(-)
		(-)	Tenderness			not tested	ESR 30→22				
2	64	Bartholin's abscess	Vulvar pain	300	7	<i>Peptostreptococcus micros</i>	WBC 8,300→5,900	eradicated	good	(-)	(-)
		(-)	Swelling			(-)	ESR 16→18				
3	43	vulvitis	Vulvar pain	300	7	<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	WBC 4,200→4,600	eradicated	good	(-)	(-)
		(-)	Swelling			(-)	ESR 18→15				

Table 2. Laboratory findings before and after administration of S-1108

Case No.		RBC ($\times 10^4/\text{mm}^3$)	Hb (g/dl)	Ht (%)	WBC ($/\text{mm}^3$)	ESR (mm/h)	CRP (mg/dl)	PLT ($\times 10^4/\text{mm}^3$)	GOT (IU/L)	GPT (IU/L)	ALP (IU/L)	S-Cr (mg/dl)
1	B	374	10.5	31.2	7100	30	0.5	30.9				
	A	409	11.3	34.5	6800	22	0.3	29.3	16	9	121	0.6
2	B	421	12.6	36.8	8300	16	0	22.5				
	A	435	12.8	38.4	5900	18	0	22.2	18	10	217	0.8
3	B	405	12.3	36.0	4200	18	0.1	22.7	11	10	74	0.8
	A	377	11.6	30.9	4600	15	0	19.4	14	9	66	0.9

B : before A : after

ており、しかも広範囲抗菌スペクトラムの製剤で外来での治療薬としては使用しやすい製剤であると考えられる。今回は3症例という極めて少数例ではあるが、満足すべき臨床効果が得られた。したがって婦人科領域の軽症感染症に対して本剤は外来治療薬として推奨される薬剤であると考えられる。

今回、卵管炎、バルトリン腺腫瘍、外陰炎の3例に対してS-1108 300 mg/day 7日間の投与により、臨床症状の著しい改善が認められた。副作用、臨床検査

値の異常は認められなかった。したがって軽症感染症の外来での治療薬として推奨できる薬剤であると考えられた。

文 献

- 1) 由良二郎, 齋藤 篤: 第40回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム。S-1108, 名古屋, 1992

Clinical studies on the new antibiotic S-1108 in the field of gynecology

Masaya Tateno

Department of Obstetrics & Gynecology, Toyama Prefectural Central Hospital
220 Nishinagae, Toyama 930, Japan

S-1108 was administered in a dose of 300 mg to 3 patients with gynecological infections.
(salpingitis 1, Bartholin's abscess 1 and vulvitis 1)

1) Efficacy was good in all patients.

Treatment proved effective against pyrexia, clinical symptoms, ESR and CRP, and the WBC count was good.

2) No side effects due to S-1108 were observed.

3) No abnormal laboratory findings due to S-1108 were observed.